

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
がん看護学実習Ⅲ(療養支援実習)	2	前期	2	実習 90時間
担当教員	岡本明美、千葉恵子			
授業概要	がんの急性期病院から在宅へ療養の場を移行する時期、ならびに在宅療養に移行したがん患者・家族へのシームレスな医療・看護を実践するために必要なヘルスケアシステムについて学ぶ。また、在宅療養、施設療養をしているがん患者の症状マネジメントや緩和ケアを経験豊富な訪問看護師、施設看護師と共に実践することで、包括的がん医療におけるがん看護専門看護師としての役割と基礎的能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養にかかわる多職種の連携・協働において、がん看護専門看護師の果たす役割を理解する。 2. 地域医療連携におけるがん治療の連携、相談支援の実際を理解する。 3. 治療期、在宅療養への移行期、在宅・施設療養期、在宅・施設終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題を理解する。 4. 治療期、在宅療養への移行期、在宅・施設療養期、在宅・施設終末期において、がん患者とその家族が抱える療養上の問題を解決するために必要な専門的知識・技術、臨床判断に基づいた支援の実際を理解する。 5. がん患者とその家族の在宅・施設療養を支えるうえでのがん看護専門看護師の役割と課題を探究する。 			
履修条件	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱを修得していること。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習内容 がんの急性期病院で行われている地域医療連携および退院支援、がん患者と家族が在宅療養を継続する上で必要な支援について理解を深める。がん患者の在宅ケア、施設ケアについて豊富な経験を持つ訪問看護師、施設看護師、がん看護専門看護師、指導教員のスーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての役割と実践上の課題を探究する。 2 実習方法 <ul style="list-style-type: none"> ・実習指導者の指導を受けながら実習計画を立案する。 ・主治医、在宅医、受け持ち看護師、訪問看護師、保健師等との退院支援カンファレンスに参加し、連携を目指した視点から、がん患者と家族が在宅療養を続けるうえで必要な支援と調整について考察する。 ・訪問看護師の訪問に同行し、在宅療養におけるがん患者の症状マネジメントと緩和ケアの実際を学ぶ。 ・がん患者やその家族の健康問題が在宅療養に及ぼす影響についてアセスメントし、よりよい療養生活を送るための多職種連携や協働に関する計画を立案し、訪問看護師と共に実施、評価する。 3 実習施設 亀田総合病院 在宅診療部、訪問看護ステーション 有限会社 小規模多機能施設 フローラ 4 実習時期と期間 2年次前期～後期 2週間 			
教科書	なし			
参考書	がん看護学特論Ⅰ～Ⅴおよびがん看護学演習Ⅰ・Ⅱで使用した文献 その他、適宜紹介する。			
評価方法・基準	実習でスーパービジョンを受けたがん看護専門看護師による評価(10%)、カンファレンス内容(20%)、最終レポート(70%)を総合して評価する			
事前・事後学習	事前学習：目標達成のためにふさわしい実習施設を選び、受け入れの打診をする。実習計画書を作成する。今までの学修内容を確認し、実習における課題を明確にする。 事後学習：実習記録およびレポートを作成する。			
備考	特になし			